

『ひろがることば しょうがくこくご 一上』 年間指導計画・評価計画（案）

単元・教材のねらいと、「学習指導要領」に示された「指導事項」「言語活動例」から、あてはまるものを表示。重点指導事項には、◎を付した。

△知技 ◇話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと ☆他教科との関連

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
4	3	なかよしの き	□挿絵を見ながら気づいたことを話し、話を想像しながら物語を楽しむとともに、国語学習への関心や意欲をもつ。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 →知技(1)ア △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 →◎知技(1)イ □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 →◎思判表C(1)イ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 →思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 →思判表C(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを读んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 →思判表C(2)イ	1 2 3	1. 挿絵をもとに話を想像し、気づいたことを話し合う。 * 季節はいつか。 * どんな場所か。 * どんな動物がいるか。 * どのようなお話かあらすじを話し合う。 2. (→)・(←)・(○)の場面から想像したことを話し合う。 (1) 場面を比べて気づいたことを話し合う。 (2) 声に出して読む。 (3) 「あ」や「あれ」の後に続く言葉を考える。 3. このお話で一番おもしろいところはどこか、話し合う。 (1) (○)の場面を見て、自分なら「なかよしのき」でどんなふうに遊びたいか考えて話し合う。 (2) 一番おもしろいと思った訳が言えたら発表する。	◎【知識・技能】姿勢や口形、発声に注意して話している。（〔知識および技能〕(1)イ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ） 【態度】進んで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって内容や感想を話し合おうとしている。
4	2 (話す聞く2)	たのしい いちにち	◇学校生活のさまざまな場面の挿絵をもとに、挨拶の言葉を考え、場面に合わせた挨拶ができるようにする。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 →知技(1)ア △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 →◎知技(1)イ ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 →思判表A(1)ア ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 →◎思判表A(1)ウ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 →思判表A(2)ア ☆道徳：B礼儀 気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接すること。	1 2	1. 挿絵では、みんなが笑顔である事に着目し、楽しい一日を送るのに大切なことを考える。 (1) 朝の登校の絵から挨拶の様子を話し合う。 * 誰と挨拶しているか。 * 何を言っているか。 (2) 自分の挨拶はどうか、振り返る。 (3) 挨拶の練習をする。 2. 挿絵をもとに、学校生活のさまざまな場面での挨拶や言葉のかけ方を練習する。 * 教室で教師に「はい」と返事をするとき。 * 地域のかたがいらしたとき。 * 職員室に入るとき。 * 給食をいただくとき。 * 謝るとき。 * 帽子を拾ってもらったとき。 * さよならするとき。	◎【知識・技能】姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。（〔知識及び技能〕(1)イ） ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ） 【態度】積極的に姿勢や口形、発声や発音に注意して、学習の見通しをもって挨拶をしようとしている。
4	2 (話す聞く2)	わたしの なまえ	◇自己紹介の場面の挿絵をもとに、話し方や聞き方について話し合い、言語生活を広げる。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 →◎知技(1)イ ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 →◎思判表A(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 →思判表A(1)エ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 →思判表A(2)ア ☆道徳・特別活動：自己紹介をし、みんなに自分のことを知ってもらおう。	1 2	1. P10・11を見て、学習のねらいと流れを知る。自分の名前をカードに書き、自分の名前を友達に知らせる。 (1) 自分の名前をカードに書く。好きな絵を描き足す。 (2) 隣の人と名前カードを見せながら紹介し合う。 2. 紹介の仕方がわかり、学級のいろいろな人とすんで名前を紹介し合う。 (1) 座ったままで、前後・左右の友だちと紹介し合う。 (2) 席を離れて、自分から相手を見つけて紹介し合う。	◎【知識・技能】姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。（〔知識及び技能〕(1)イ） ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ） 【態度】積極的に姿勢や口形、発声や発音に注意して、学習の見通しをもって名前を紹介し合おうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
5	3 (話す聞く3)	みつめて はなそう、たのしく きこう	◇挿絵から見つけた話題にそって話し、相手の話題に対して、簡単なことを尋ねたり、応答したりする。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒ ◎知技(1)ア ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒ 思判表A(1)ア ◇互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。 ⇒ ◎思判表A(1)オ ◇尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。 ⇒ 思判表A(2)イ	1 2 3	1. 挿絵を見て、誰がいるか、どんなことをしているかなどを話し合う。 2. 挿絵から話題を見つけて話したり、話を聞いて尋ねたりする。 3. 組みになったり、二人の組み合わせを変えたりして、いろいろな話題で話し合う。	◎【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ア) ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aオ) 【態度】積極的に互いの話に関心をもち、学習の見通しをもって尋ねたり応答したりしようとしている。
	2 (書く1)	かき、かぎ	△清音と濁音、半濁音の違いを理解して、正しく読んだり書いたりし、主語と述語の関係や文の終わりに句点がつくことを理解し、正しく文を書く。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒ ◎知技(1)ウ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒ 知技(1)カ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒ 思判表B(1)ウ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒ 思判表B(2)ウ	4 5	4. 挿絵と言葉を対応させながら、清音・濁音・半濁音の言葉を声に出して読む。 (1) 書き順に気をつけながら新出文字を書く。 (2) 濁点の書き方を理解する。 5. 主語・述語に気をつけて、文を書き、文の終わりに句点(。)をつける。 (1) P27の「やぎがいる。」をなぞる。 (2) 主語と述語を考えて簡単な文を作る。	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)ウ) 【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) 【態度】積極的に濁音・半濁音の表記、句点の打ち方を理解し、学習課題に沿って簡単な文を書こうとしている。
	2	ことばを あつめよう	△言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、つながる言葉を考えて読んだり、書いたりする。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒ 知技(1)ウ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く、語彙を豊かにすること。 ⇒ ◎知技(1)オ	6・7	6. 挿絵を見ながら、提示された言葉を読む。 ・書き順に気をつけながら新出文字を練習する。 7. 新出の平仮名の書き方を理解し、正しく書く。	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使っているとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く、語彙を豊かにしている。(〔知識及び技能〕(1)オ) 【態度】進んで身近なことを表す語句の量を増やし、学習の見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
5	3	くまさんと ありさんのごあいさつ	□登場人物の様子を考えながら、楽しく音読する。 △丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。 ⇒知技(1)キ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(1)ク □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒◎思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒思判表C(1)エ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ	1	1. 短いお話の概要をつかんで、楽しく音読する。 (1) 挿絵を参考にしながら、誰が出てくるか、どんな様子かの大体をつかむ。 (2) 教師の範読を聞き、お話の概要を知る。 (3) 語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読する。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ） 【態度】進んで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって内容や感想を伝えようとしている。
				2	2. 登場人物の様子を想像しながら、工夫して音読する。 (1) どんな「くまさん」と「ありさん」か、想像したことを発表する。	
				3	3. 音読を発表したり、友達の音読を聞いたりして、音読を楽しむ。 (1) さまざまな形態で音読を楽しむ。 (2) 友達の音読に興味をもって聞く。	
	2 (書く1)	ねこ、ねっこ	△促音の読み方と書き方を理解し、句読点の使い方を理解する。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒◎知技(1)カ △丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。 ⇒知技(1)キ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ	4	4. 挿絵を見ながら、促音のついた言葉とつかない言葉を、読んだり書いたりする。 (1) 手拍子を打ちながら、音節を意識して音読する。 (2) 促音の表記の仕方を知り、ノートやワークシートに書く。	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） ◎【知識・技能】文の中における主語と述語との関係に気付いている。（〔知識及び技能〕(1)カ） 【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ） 【態度】積極的に促音の表記、読点の使い方を理解し、学習課題に沿って簡単な文を書くようにしている。
				5	5. 助詞「は」の使い方、読点（、）や句点（。）の書き方に気をつけて文を視写する。挿絵を参考に、簡単な敬体の文を考える。 ・考えた文「○○は、～しました。」をノートに書く。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
5	3	ほんを よもう	△読みたい本を探して読んだり、読んだ本について友達や先生に話したりして、読書を広げる。 △昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。 ⇒知技(3)ア △読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。 ⇒◎知技(3)エ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ	1 2・3	1. 教科書に紹介されている絵本の表紙や題名を参考に読みたい本を選び、読み聞かせを聞いたり、自分で読んだりする。 2. いろいろな本を読み、おもしろかったところを友達と伝え合う。	◎【知識・技能】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(〔知識及び技能〕(3)エ) 【態度】積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって感想を伝え合おうとしている。
	2 (書く1)	ことばを つなごう	△言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、つながる言葉を考えて読んだり、書いたりする。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)ウ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ	4・5	4. 挿絵を見ながら、提示された言葉を読み、空欄にどんな文字が入れば言葉がつながるかを考える。 5. 新出の平仮名の書き方を理解し、正しく書く。 (1) 新出平仮名の練習をする。 (2) 「を」の読み方や使い方を知り、「○○ を～。」の文を考えて書く。	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。(〔知識及び技能〕(1)オ) 【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) 【態度】進んで身近なことを表す語句の量を増し、学習課題に沿って読んだり書いたりしようとしている。
5	1	たのしく よもう 1 あいうえおの うた	△様子を思い浮かべながら、リズムよく音読する。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(1)ク	1	1. 言葉のまとまりや意味を考えたり、リズムをつかんだりして、『あいうえおの うた』を楽しく音読する。 2. 一人で読む、斉読する、交代で読むなど、さまざまな形態で音読を楽しむ。 3. 『あいうえおの うた』を視写する。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(〔知識及び技能〕(1)ク) 【態度】進んで語のまとまりや言葉の響きなどに気を付け、学習の見通しをもって音読しようとしている。
	1	ごじゅうおん	△五十音表を見て、これまでに学んだ平仮名の学習を振り返るとともに、五十音表の基本的な特徴に気づく。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ	2	4. 五十音表を見て、平仮名を縦に音読したり、横に音読したりする。 5. 書きにくい平仮名や、まちがえやすい平仮名を取り上げて練習する。	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記の仕方を理解して文や文章の中で使っている。また、また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)ウ) 【態度】積極的に平仮名を読み、今までの学習を生かして五十音表の特徴に気づこうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
5～6	5	けむりの きしや	□文章と挿絵を結びつけながら、場面の様子について人物の行動を中心に想像を広げながら読む。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)ウ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。⇒◎知技(1)ク □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。⇒◎思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。⇒思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。⇒思判表C(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ	1 2 3 4 5	1. 挿絵を見ながら全文を読み、感想を話し合う。 2. お話のあらすじをつかみ、各場面の挿絵をもとに、あらすじを説明する。 3. おじいさんの人柄を考える。 ＊どんな仕事をしているか ＊どんな性格の人物か ＊まきを燃やしたのはなぜか 4. 空へ上っていくのがれぼしと、それを見ているおじいさんの、それぞれの言葉を想像する。 5. 人物に手紙を書き、お互いに読み合う。 ＊おじいさんに ＊ながれぼしに ＊二人に（書きたい相手を選ぶ）	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ） 【態度】進んで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって登場人物に手紙を書こうとしている。
	2	のぼす おん	△長音の読み方と書き方を理解する。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒知技(1)イ △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ	6 7	6. 長音の読み方や書き方を理解し、長音の入ったいろいろな言葉を、読んだり書いたりする。 7. P51の長音の入った詩をリズムよく読んだり、視写したり聴写したりする。	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） 【態度】積極的に長音の表記の仕方を理解し、学習の見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。
6	2 (書く2)	せんせい、あのね	■話し言葉がそのまま文になることを知り、先生に話しかけるかたちの簡単な文章を書くとともに、敬体の文章に慣れるようにする。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)ウ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。⇒◎知技(1)カ △丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。⇒知技(1)キ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア ☆生活科・特別活動：敬体や方言を使ったり、書いたりした文を見直ししながら、相手にわかりやすいように書いて知らせる。 ☆道徳：友達が書いたもののよいところを見つける。	1 2	1. 挿絵をもとに見通しをもち、伝えたいことを文に書くことを知る。 (1) 身近なできごとから、伝えたいことを見つけ、簡単な文に書くことを知る。 (2) P52の文例を読む。 (3) 文例を参考に、知らせたいことで、思いついたことを発表する。 2. 伝えたいことを書く。 (1) 伝えたいことを話し言葉で文に書く。「せんせい、あのね」の書きだしで書いてみる。 (2) 書き終わったら、声に出して読み返し、直すところがあれば直す。 (3) 書き終わった人どうして、交換して読む。 3. 「○○は、～へ □□しました。」の文例を読み、ノートに視写しながら敬体の文章になれる。	◎【知識・技能】文の中における主語と述語との関係に気付いている。（〔知識及び技能〕(1)カ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bア） 【態度】進んで主語と述語との関係に気付こうとし、学習の見通しをもって簡単な文章を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
6	4 (話す聞く 4)	みんなに はなそう	◇身近なことや経験したことから話題を決め、必要なことを思い出して、順序を考えて話す。 △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 →知技(1)カ △丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。 →◎知技(1)キ ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 →◎思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基いて、話す事柄の順序を考えること。 →思判表A(1)イ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 →思判表A(1)エ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 →思判表A(2)ア	1 2・3 4	1. 挿絵を見て、学習のねらいや方法を知る。身近なことや経験したことの中から、どんなことを話すか、話題を考える。 2. 話したいことを絵に描き、それをもとに二文程度の文を作り、話の準備をする。 3. グループで発表し、感想やよいところを伝える。	◎【知識・技能】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使っている。（〔知識及び技能〕(1)キ） ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aア） 【態度】積極的に丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付け、今までの学習を生かして身近なことを話そうとしている。
6	1	たのしく よもう 2 がぎくげごの うた	△様子を思い浮かべながら、リズムよく音読する。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 →知技(1)イ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 →◎知技(1)ク	1	1. 言葉の意味を考えながら、『がぎくげごの うた』をリズムよく楽しく音読する。さまざまな形態で何度も音読する。 2. 『がぎくげごの うた』を視写する。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） 【態度】進んで語のまとまりや言葉の響きなどに気を付け、学習の見通しをもって音読しようとしている。
6	3 (書く3)	よく みて かこう	■身近なものを観察し、気づいたことを簡単な絵や文で表し、書いたものを読み合って感想を伝え合う。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 →◎知技(1)ア ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 →◎思判表B(1)ア ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 →思判表B(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 →思判表B(2)ア ☆生活科：観察カードを書く学習に生かすことができる。	1 2 3	1. 身近で育てている植物などをよく見て、絵と文に書くことを知る。 (1) 実際に観察し、特徴や小さな変化に気づく。 (2) 全体の様子や気づいたこと、さわった感じや自分の思いなどをカードに書く。 2. 絵に色をぬったり、文を読み返してまちがいを直したりして、観察カードを完成させる。 3. お互いに書いたものを読み合う。 ・「いいな」と思ったことを書いた人に伝える。	◎【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きを伝える働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bア） 【態度】進んで経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、学習の見通しをもって記録する文章を書くようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
6～7	12 (書く12)	しらせたい ことを かこう	■身近なできごとや経験から知らせたいことを選び、簡単な文章を書く。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表◎B(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。⇒思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア ☆生活科・特別活動：敬体や方言を使ったり、書いたりした文を見直ししながら、相手にわかりやすいように書いて知らせる。 ☆道徳：友達が書いたもののよいところを見つける。	1	1. 挿絵をもとに単元の見通しをもち、伝えたいことを文に書くことを知る。 (1) 身近なできごとから、伝えたいことを見つけ、簡単な文に書くことを知る。	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bア） 【態度】積極的に長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解し、学習の見通しをもって簡単な文章を書こうとしている。
				2	2. 伝えたいことを決める。 (1) 前時で話し合ったことを参考に、何を書くか、誰に伝えるかを考える。 (2) 隣どうして、何を誰に伝えたいか話す。 (3) 全体にも紹介する。	
				3	3. 敬体で文を書くことを知る。 (1) P71の文例を読み、「○○は、～ました。」のような敬体で書くことを知る。 (2) いろいろな言い方を敬体に直す練習をする。	
				4～8	4. 伝えたい相手を決めて文章を書く。 (1) 伝えたい相手を考えながら二文程度の文を書く。 (2) 題名を決める。	
				9～11	5. 読み返し、交流する。 (1) 書いた文を自分で読み返し、まちがいを直す。句読点や文字のまちがいに注意する。 (2) 書き終わった人どうして読み合って、よかったところを伝える。	
				12	6. 読んだ作品のよいところを伝え合い、自分のよさに気づく。	
	1	は、を、へ	△助詞の表記と語中の表記とを区別して理解する。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。⇒知技(1)カ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ ☆生活科：見つけたことや気づいたことを、文章に書く。	13	7. P72～73の提示文を読んで、助詞の「は」「を」「へ」の読み方と書き方を確かにする。 (1) 「は・を・へ」の例示された文を音読し、ノートに視写する。 (2) P72のありさんの詩を音読し、「は・を・へ」の読み方を確かにする。 8. 助詞の「は」「を」「へ」を使って文を作る。 (1) 全体で話し合って例をあげ、書き方を確認する。 (2) 各自、ノートに文を書く。	◎【知識・技能】助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ）
7	2	としょかんへ いこう	△図書館の基本的な利用方法を知り、興味のある本を探したり、紹介し合ったりする。 △昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。⇒知技(3)ア △読書に親しみ、いろいろな本があることを知る。⇒◎知技(3)エ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ	1	1. 図書館のはたらきや利用の仕方について知る。 (1) 図書館の利用経験を発表する。 (2) 実際に学校図書館へ行って本を読んだり、借りたりする。	◎【知識・技能】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。（〔知識及び技能〕(3)エ） 【態度】積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって本を紹介しようとしている。
				2	2. 読んだ本の中から気に入った本を一冊選び、紹介し合う。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
9	5 (話す聞く 5)	なつのおもいでを はなそう	◇相手の話の内容を受けて話したり、自分からすすんで話したりする。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。⇒知技(1)ア △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒◎知技(1)イ ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。⇒◎思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。⇒思判表A(1)イ ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。⇒思判表A(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。⇒◎思判表A(1)エ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。⇒思判表A(2)ア ☆生活科：身近な自然や生活経験に興味をもつ。 ☆道徳：自分の生活について話したり、友達の生活について聞いたりして、自分について振り返る。	1	1. P94の挿絵をもとに、学習の見通しをもつ。 (1) 主な学習のねらいを知る。 *夏休みのできごとを話題にすること *実物を持ってきたり、絵や写真を持って話すこと *グループで話し合い、聞く人も質問や感想を言うこと (2) 挿絵はどんなことを表しているのか話し合う。 (3) 自分たちの夏休みのできごとを発表し合う。	◎【知識・技能】姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。（〔知識及び技能〕(1)イ） ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aア）
				2・3	2. 発表の準備をする。 (1) P95の挿絵をもとに、どんな発表をするのか話し合う。 (2) 発表原稿を書く。 (3) 発表に必要なものを用意する。 *思い出の品 *写真、絵 など (4) 発表の練習をする。	◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aエ）
				4・5	3. 「夏の思い出発表会」をする。 (1) 話すとき、聞くときのきまりを確認する。 (2) グループ全員が話したら、他のグループと入れ替わって、話をする。 (3) 質問や感想を言う。	【態度】積極的に話し手が知らせたいことを落とさないように聞き、学習の見通しをもって質問や感想を言おうとしている。
	2	かたかなのことば	△身のまわりの片仮名で書く言葉や表記を理解し、正しく書く。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ ☆生活科：身のまわりの自然や食べ物、道具に興味をもつ。	6	4. 片仮名で書く言葉を見つけ、簡単な片仮名を読んだり書いたりする。 (1) P96の挿絵から片仮名で書く言葉を見つけて発表する。 (2) P96下段の例示を読み、書き順や形に気をつけてなぞったり、ノートに練習したりする。	◎【知識・技能】片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ）
				7	5. 片仮名の文字や言葉を読んだり、書いたりして、練習する。 ○P97に示された語句を、声に出して読んだりなぞったりする。 ○ノートに、書き順や形に気をつけて練習する。	【態度】積極的に片仮名で書く語の種類を知り、学習の見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
9	6	けんかした 山	□場面の様子を想像しながら、お話を読む楽しさを味わう。 △第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(1)ク □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒◎思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒思判表C(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ ☆道徳：けんかした経験を出し合ったり、登場人物の気持ちを想像したりして、相手の気持ちになる。	1 2～5 6	1. 題名や挿絵をもとに、学習のねらいをつかむ。 (1) 山の様子や言葉から、場面を想像して、お話を楽しむ。 (2) 挿絵を見ながら教師の範読を聞き、あらすじをつかんだり、簡単な感想をもったりする。 2. 山のしたことをもとに場面の様子を想像する。 *いつもけんかをしている二つの山 *どっと火を噴き出す山 *雨でしょんぼり顔を見合わせる山 *何年も何年も経ち、緑につつまれる山 3. 物語で一番いいと思ったところ（心に残ったところ）を見つけ、なぜそこがよかったのか考えて発表したりノートに書いたりする。 ・お話をもう一度読んで、すっかり緑につつまれた山に、言ってあげたいことを考えて書く。	◎【知識・技能】当該学年に配当されている漢字を読んでいる。（〔知識及び技能〕(1)エ） ◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ） 【態度】進んで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって考えたことを発表したり文章にまとめたりしようとしている。
	2	(みんなで たのしく よ みましょう。)	□役割を決めてグループで音読する。 △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(1)ク □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒◎思判表C(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ	7 8	4. 音読発表会の準備をする。 (1) どんな会にするか、誰を招待するか話し合う。 (2) 登場人物を確認し、グループで役割を決めて音読の練習をする。 5. 音読発表会をする。 (1) 発表会のときに気を付けることを確認する。 *発表者として *聞き手として *招待したかたがたに対して (2) 発表会をする。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ） 【態度】進んで文章を読んで感じたことを共有し、学習の見通しをもって役割を決めて音読しようとしている。
	3	かん字の はじまり	△漢字には、絵からできたものとしるしからできたものがあることを理解する。 △第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ	9 10 11	6. 漢字の成り立ちに関心をもち、「山」「月」「木」の漢字を、正しく読んだり書いたりする。 7. 「上」「下」の漢字を、正しく読んだり書いたりする。 8. P107の上段に示された漢字が、どの絵と対応するか確かめ、漢字の由来を理解する。	◎【知識・技能】当該学年に配当されている漢字を読んでいる。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【態度】進んで当該学年で配当されている漢字を読み、学習の見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
9	7	だれが、たべたのでしょう	□問いの文と答えの文や写真と文の対応に気をつけながら、動物の食べ跡について説明した文章を読む。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)ウ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。⇒◎知技(1)カ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。⇒◎知技(1)ク □時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。⇒◎思判表C(1)ア □文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。⇒思判表C(1)ウ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。⇒思判表C(1)カ □事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。⇒思判表C(2)ア	1	1. 題名を読んで、「誰が」「何を」食べたのかを考えるなどして学習への意欲をもつ。 2. 題名と9枚の写真を手がかりに、この文章が説明していることの大体をつかむ。	◎【知識・技能】文の中における主語と述語との関係に気付いている。(〔知識及び技能〕(1)カ)
				2～4	3. 問いと答えの文や写真との対応に気をつけながら、食べ跡と食べた動物やその食べ方を読む。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(〔知識及び技能〕(1)ク)
				5	4. 写真の食べ跡の特徴を話し合ったり、食べ方を想像したりして、動物の暮らしについて話し合う。	◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって分かったことや思ったことを話そうとしている。
				6・7	5. 動物について知っていることや絵本・図鑑などで調べたことを、問いと答えからなる簡単な文章で書き、紹介し合う。	【態度】積極的に時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって分かったことや思ったことを話そうとしている。
9～10	13 (書<13)	たのしかったことをかこう	■日常生活の中から書くことを見つけ、簡単な文章を書く。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。⇒◎思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。⇒思判表B(1)エ ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア ☆生活科：見つけたことやおもしろかったことなどをメモしておく。 ☆道徳：友達や自分のよいところを見つける。	1	1. 学習の見通しをもつ。 (1) P116・117の挿絵や本文から、心に残ったできごとを思い出し、文章を書くことを知る。 (2) 学校や家でのできごとで、楽しかったことやがんばったことなどを発表する。 (3) P117の「ここが だいじ」を読んで、文を書くのに、どんなことを思い出したらよいか気づく。	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)ウ)
				2	2. 文の書き方を知る。 (1) P117の「ここが だいじ」を確かめる。 (2) 文を書いたら、友達と読み合うことを知る。	◎「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア)
				3	(3) P118・119の例を読み、どんな文を書くのかイメージをもつ。 (4) 「」の使い方や題名、名前の書き方などを確認する。 (5) 「ここが だいじ」が例示の文章にどう生かされているか、確認する。	◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ)
				4	3. 文章を書く。(話題設定・構成) (1) 文章に書く内容を決める。 (2) 書く題材が決まったら、書きたいことを思い出してメモやカードなどに書く。	【態度】進んで経験したことから書くことを見付け、学習の見通しをもって文章を書こうとしている。
				6～10	4. 文章を書く。(記述・推敲) (1) メモやカードを並べて、書く順番を決める。 (2) 原稿用紙の書き方を知る。 *題名 *名前 *書き始めの一字下げ *会話の「」 *読点の打ち方 など (3) メモをもとに文章を書く。分量のめやすは、本文だけで100字程度。 (4) 書いたら読み返す。まちがいがあれば直す。	
				11～13	5. 書いた文章を交流する。 (1) 書いた文章を読み合う。 (2) 友達のよいところを見つけて伝え合う。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
10	2	かぞえうた	△数え歌をもとにして、漢字を使った数の読み方に慣れるようにする。 △第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ △長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くこと。⇒◎知技(3)イ ☆音楽科：手拍子などで拍子を取りながらリズムよく読む。	1 2	1. 言葉の意味を考えながら、リズムよく音読する。 2. 絵と言葉をもとに、数え方を確認する。	◎【知識・技能】当該学年に配当されている漢字を読んでいる。〔知識及び技能〕(1)エ) ◎【知識・技能】長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付いている。〔知識及び技能〕(3)イ) 【態度】進んで言葉遊びに親しみ、学習の見通しをもってリズムよく音読しようとしている。
	3	かぞえよう	△一から十までの漢数字を正しく読み、書く。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒知技(1)イ △第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ ☆算数科：正しい読み方で十までの数を数える。個数や順番を正しく数えたり表したりする。	3 4 5	3. 数を表す漢字を声に出して読んだり書いたりすることを学ぶ。新出漢数字を書き順に気をつけて正しく書く。 4. P122・123を見て、一から十までの漢数字を声に出して読む。挿絵を見ながら、助数詞をつけて漢数字を声に出して読む。 5. 漢数字を使って短い文をつくり、ノートに書いて発表し合う。	◎【知識・技能】当該学年に配当されている漢字を読んでいる。〔知識及び技能〕(1)エ) 【態度】進んで漢字を読み、学習の見通しをもって文や文章の中で使おうとしている。